

3 名古屋市総合計画2028との関係

1 | 成長の原動力の柱と推進する取り組み

第20回アジア競技大会・第5回アジアパラ競技大会の開催

アジア・アジアパラ競技大会を開催する意義・目的

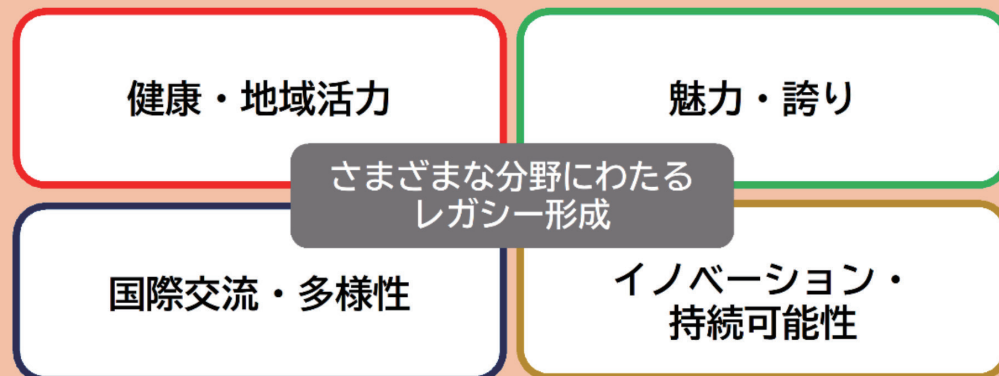
- ・スポーツの公平な競争を通じて、スポーツや文化、教育、国際的な尊敬、友情、平和など、さまざまな分野の振興・促進に寄与
- ・アジア最大の国際スポーツ・パラスポーツ大会
- ・大会期間中、多くの観客や大会関係者がこの地域を来訪

大会を取り巻く状況の変化

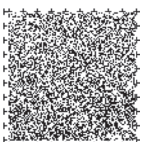
- ・2020 東京オリンピック・パラリンピックの開催
- ・開催決定後における国際情勢の変化、物価の高騰

- 大会の質を保ちつつ経費の抑制を図り、簡素で合理的・機能的な大会に
- 両大会を一過性のスポーツイベントで終わらせるのではなく、大会の開催効果を、スポーツの振興をはじめ、交流人口の拡大、国際交流の促進、共生社会の実現、国際競争力の強化など、さまざまな分野にレガシーとしてつなげていくことが必要

■ 「2026アジア・アジアパラ競技大会NAGOYAビジョン」 ～大会を契機としてめざすまちの姿～



本市をあらゆる面でバージョンアップし、
市民のより豊かな生活の実現につなげる



※名古屋市総合計画2028の全506事業から本ビジョンのめざすまちの姿に寄与する事業を大会関係事業として設定し、代表的な51事業を本ビジョンに掲載しています。

アジア・アジアパラ競技大会に関連する主な事業

開催前

開催中

開催後

開催に必要

477 アジア・アジアパラ競技大会の推進
(組織委員会運営等)

479 アジア・アジアパラ
競技大会会場施設の整備

480 瑞穂公園の整備



瑞穂公園陸上競技場改築後イメージ
©2021 瑞穂 L O O P — P F I

開催に向け重要

012 重点整備地区のバリアフ
リー化の推進

018 アジア・アジアパラ
競技大会に向けた
バリアフリー整備

478 アジア・アジアパラ競技大会に向けた
機運醸成等に関する本市の取り組み
(機運醸成、会場周辺整備等)



第20回アジア競技大会
エンブレム



第5回アジアパラ競技大会
エンブレム

さまざまな分野にわたるレガシー形成

大会を契機に加速

【スポーツの振興】

481 スポーツ実施機会の提供

483 障害者スポーツの振興

484 スポーツプロモーション
の実施

485 大規模競技大会等の誘致・開催

486 新たなスポーツの振興

【交流人口の拡大】

465 観光プロモーションの推進

【国際交流の促進】

112 市立大学における多文化共
生・国際化の推進に向けた
人材育成

428 外国諸都市との交流推進

【共生社会の実現】

011 バリアフリーのまちづくりの推進

013 民間鉄道駅舎のバリアフリー化の推進

017 ユニバーサルデザインタクシーの導入補助

019 宿泊施設のバリアフリー化推進

020 障害と障害者理解の推進

092 障害者差別解消の推進

【国際競争力の強化】

487 イノベーションを起こす環境の整備

495 産業交流の場づくり

496 イノベーションの基盤となる企業
等の集積促進

など

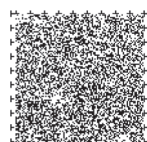


第4回杭州アジアパラ競技大会開会式
©2023 HAPGPP

名古屋市総合計画
2028に関するホ
ムページはこちら



【出典：名古屋市総合計画2028】



3 名古屋市総合計画2028との関係

2 「開催に必要」及び「開催に向け重要」な事業の主な取り組み

まちなみ 1 健康・地域活力

トップアスリートによる学校・地域訪問

トップアスリートが学校や地域を訪問し、大会の紹介や競技体験、自身の国際大会での経験談など、トップアスリートとの交流を実施します。



トップアスリートによる学校訪問

市の広報ツールによる機運醸成の実施

広報なごやにおいて両大会に関係する特集記事を連載することで、幅広い方々にスポーツに興味を持っていただくとともに、市公式ウェブサイトやテレビ、ラジオ、SNSなど、市の広報ツールを最大限活用し、大会の認知度向上に向けて広く大会の魅力を発信します。



広報なごや特集ページ

「MOVE ON 2026」による地域活性化

地元企業などと連携しながら、アジア・アジアパラ大会を盛り上げていけるようにロゴマークを作成しました。地域一体となって実施・展開する活動を通じて、大会の認知度向上はもちろん大会の開催意義などを広く伝えることで大会機運醸成とさらなる地域活性化を図っていきます。



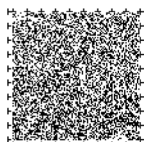
まちなみ 2 魅力・誇り

選手間交流事業

大会に参加する選手を含めた大会関係者を、愛知・名古屋の象徴的な場所へ招待し、大会関係者が交流できる機会を提供します。

文化プログラム事業

大会を契機に愛知・名古屋へ訪れる人を対象に、アジア、日本、愛知・名古屋の歴史、文化芸術、自然環境、産業といった様々な資源を紹介する文化プログラムを、競技会場やメインメディアセンター、選手団の宿泊施設等で大会期間中に実施します。また、魅力発信に寄与する既存活動や新規活動を認証し、大会公認のマークを使用して頂くことで、それらの活動がより促進できるよう取り組みます。



教育現場への展開

大会への興味喚起や国際理解をテーマとした学習教材を作成し、小中学校等の授業において活用することに加え、言語や文化が異なる人々や障害を抱えた人々との交流の機会を充実します。

Aichi-Nagoya 2026 アクセシビリティ・ガイドラインの策定

障害の有無に関わらず、すべての人々が大会に向けてアクセスできるアクセシビリティを確保するための環境整備を図ることで、多様性を尊重し合う共生社会の実現に貢献するため、令和5年12月に策定しました。

愛知・名古屋 2026 大会ボランティアへの参加

年齢や性別、障害の有無に関わらず、全ての方が楽しみ、笑顔でやりがいを感じながら活動できるボランティア運営を目指します。

ボランティア活動を通じて、ボランティア同士の交流の促進、ホスピタリティの向上に寄与するなど、参加した方にとって貴重な体験となります。また、活動の経験は、大会後も継続的に様々な活動への参加につながり、地域コミュニティの担い手となるなど、互いに支え合う共生社会の実現に寄与します。



ボランティア募集

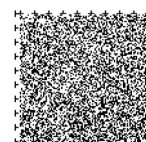
SDGs推進プラットフォーム分科会での取り組み

SDGs推進プラットフォームの「アジア・アジアパラ競技大会を盛り上げる」分科会において、参画する会員や大学生とともに大会の機運醸成と認知度向上を図ることで、大会を通じたSDGsの推進を目指します。



愛知・名古屋 2026 大会持続可能性に配慮した調達コードの策定

大会運営を担う組織委員会では、大会の準備・運営段階の調達プロセスにおいて、経済的な合理性のみならず、環境、社会等の持続可能性にも配慮した調達を行うことを目的として「持続可能性に配慮した調達コード」を策定しました。SDGsが掲げる持続可能な消費及び生産の形態が確保された社会の実現に向けて、大会のレガシーとして、広く社会に持続可能性を重視する姿勢が定着するように働きかけていきます。



1 | アジア競技大会・アジアパラ競技大会とは

(1) アジア競技大会とは

アジア競技大会は、第2次世界大戦後まだ間もない1951年、戦禍によって引き裂かれたアジア諸国の絆を、スポーツを通じて取り戻し、アジアの恒久平和に寄与したいとの願いを込めて、インドのネルー初代首相の提唱により、日本を含む11か国の参加のもと、第1回大会がニューデリーで開催されました。

現在は、アジアのオリンピック・ムーブメントを推進するアジア・オリンピック評議会（OCA）が、原則4年に1回開催しており、スポーツの公平な競争を通じて、スポーツ、文化、教育、国際的な尊敬、友情や平和など、様々な分野の振興・促進に寄与する一大イベントとなっています。

■ 過去大会実績の抜粋及び今後の大会開催予定

回	開催年	開催都市	開催国	参加国及び地域	参加選手数
1	1951年	ニューデリー	インド	11	489人
3	1958年	東京	日本	16	1,820人
～					
12	1994年	広島	日本	42	6,828人
～					
16	2010年	広州	中国	45	9,704人
17	2014年	仁川	韓国	45	9,501人
18	2018年	ジャカルタ・パレンバン	インドネシア	45	11,300人
19	2023年	杭州	中国	45	11,831人
20	2026年	愛知・名古屋	日本	—	—
21	2030年	ドーハ	カタール	—	—
22	2034年	リヤド	サウジアラビア	—	—

(2) アジアパラ競技大会とは

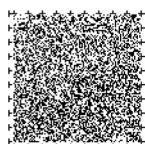
アジアパラ競技大会は、1975年より9回開催した「極東・南太平洋身体障害者スポーツ大会（フェスピック）」の実績を引き継ぎ「アジアパラ競技大会」として、2010年第1回大会が中国の広州で開催されました。

アジア地域におけるパラリンピック・ムーブメントの推進と競技スポーツのさらなる進展を図るために開催するアジア地域の障害者総合スポーツ大会です。

国際パラリンピック委員会（IPC）の地域委員会であるアジアパラリンピック委員会（APC）が主催し、原則4年に一度開催しており、日本での開催は、初めてとなります。

■ 過去大会実績及び今後の大会開催予定

回	開催年	開催都市	開催国	参加国及び地域	参加選手数
1	2010年	広州	中国	41	2,289人
2	2014年	仁川	韓国	41	2,497人
3	2018年	ジャカルタ	インドネシア	43	2,888人
4	2023年	杭州	中国	44	約3,100人
5	2026年	愛知・名古屋	日本	—	—



2 | 愛知・名古屋大会の概要

(1) 第20回アジア競技大会の概要

正 式 名 称	【日本語】第20回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋） 【英 語】20th Asian Games Aichi-Nagoya 2026
会 期	令和8（2026）年9月19日～10月4日 16日間
実 施 競 技	41競技
メ イン 会 場	瑞穂公園陸上競技場
参 加 者 数	選手団（選手、チーム役員）最大15,000人
大会コンセプト	◆アスリートセンタードの視点 ◆既存施設の活用 ◆先端技術の駆使 ◆伝統と県民・市民性に触れるおもてなし ◆アジア競技大会の開催を誇りに、更なるスポーツ文化の普及へ貢献

公式マスコット

<大会エンブレム> 「ホノホン / HONOHON」

<大会スローガン>



IMAGINE ONE ASIA
ここで、ひとつに。

(2) 第5回アジアパラ競技大会の概要

正 式 名 称	【日本語】愛知・名古屋 2026 アジアパラ競技大会 【英 語】Aichi-Nagoya 2026 Asian Para Games
会 期	令和8（2026）年10月18日～10月24日 7日間
実 施 競 技	18競技
メ イン 会 場	瑞穂公園陸上競技場
参 加 者 数	選手団（選手、チーム役員）3,600～4,000人
大会コンセプト	◆アスリートセンタードの視点 ◆既存施設の活用 ◆先端技術の駆使 ◆伝統と県民・市民性に触れるおもてなし ◆アジアパラ競技大会の開催を誇りに、更なるスポーツ文化の普及へ貢献 ◆共生社会の実現

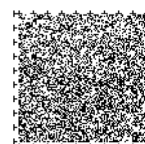
公式マスコット

<大会エンブレム> 「ウズミン / UZUMIN」

<大会スローガン>



IMAGINE ONE HEART
こころを、ひとつに。



3 | 愛知・名古屋大会の開催効果をレガシー形成へ

さまざまな開催効果をレガシー形成につなげ、より良い未来の NAGOYA へ



経済波及効果
1兆9,395億円
(全国)

大会の開催により、さまざまな効果が全国にもたらされると考えられており、経済波及効果は、愛知県内で1兆900億円、全国で1兆9,395億円になると試算しています。

◆経済波及効果の前提

需要増加額（対象地域に新たに発生した需要の増加額）の推計

- ・直接的効果 1,692億円
愛知・名古屋大会の開催に直接的に関わる投資・支出により発生する需要増加額を推計
- ・レガシー効果 7,519億円
大会のレガシーを見据えて実施される愛知県内での取組みを抽出し、各施策の指標等を参考に需要増加額を推計

第20回アジア競技大会及び第5回アジアパラ競技大会の経済波及効果に関するホームページはこちら

経済波及効果 単位：億円

項目	生産誘発額		粗付加価値誘発額		雇用者所得誘発額	
	愛知県	全国	愛知県	全国	愛知県	全国
直接的効果	1,975	3,670	1,113	1,939	563	1,037
レガシー効果	8,926	15,724	5,172	8,597	2,470	4,429
合計	10,900	19,395	6,285	10,536	3,032	5,466

※億円単位で四捨五入。表の合計金額と各項目を合計した金額が一致しない場合がある。
※分析対象期間は、2016年（アジア競技大会招致決定）から2036年（大会10年後）まで
※試算にあたり、算定時点における大会開催内容の想定を基に、2015年産業連関表及び雇用表を利用して、第2次間接波及効果までを試算しているため、現在までの方針変更などには未対応

【令和4年7月公表 愛知県及び名古屋市による調査による】

CONCEPT [コンセプト]

夢や希望をはぐくみ、 誰もが自分らしく生きる

- ◆アジア最大のスポーツの祭典を通じて、
かけがえのない記憶と感動が夢と希望をはぐくみ、
誇りと活力に満ち溢れた都市の姿を
未来へつなぎます。
- ◆住む人も、訪れる人も、
誰もが自分らしく生きるまちをめざします。

アジアとともに歩み、 更なる飛躍を遂げる

- ◆SDGsの理念を踏まえるとともに、
アジアをはじめとする世界の人々との
相互理解を推進し、
アジアとともに歩む姿を示します。
- ◆大会への取り組みを本市の飛躍へつなげ、
持続的に発展する国際都市をめざします。

まちの姿
1

健康・地域活力

まちの姿
2

魅力・誇り

まちの姿
3

国際交流・多様性

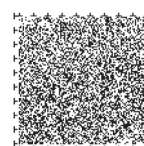
まちの姿
4

イノベーション・
持続可能性

未来の NAGOYA へ

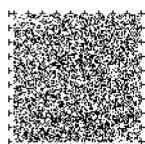
本市をあらゆる面でバージョンアップし、
市民のより豊かな生活の実現につなげる

総合計画や各分野における個別計画の
推進により、さまざまな分野にわたる
レガシー形成に取り組む

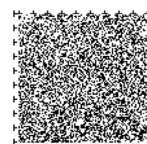


参考2 用語解説

用 語	頁	解 説
あ 行		
あいサポート運動	20	誰もがさまざまな障害の特性などを理解して、障害のある人に対してちょっとした手助けや配慮などを実践することで障害のある人が暮らしやすい社会をすべての市民で一緒につくっていくことを目的とした運動。
アクティブライフ	7,8	運動・スポーツのほか、レジャー、家事や階段の昇り降りなど日常生活における身体活動を通じて体を動かし、気軽に楽しく活動的な生活を送るライフスタイル。
アジア・オリンピック評議会	31	アジア競技大会の主催者。クウェートに本部を置く。2024 年 12 月現在、45 の国や地域のオリンピック委員会が加盟。略称は O C A。
アジアパラリンピック委員会	31	アジアパラ競技大会の主催者。ドバイに本部を置く。2024 年 12 月現在、アジアの 45 の国や地域が加盟。略称は A P C。
アーバンスポーツ	2,10	広い場所を必要としない、個人が気軽に始められるなどの理由で、都市住民が参加しやすいスポーツ。都市型スポーツ。
イノベーション	19,21, 25,26	従来の考え方にとらわれない自由な発想で、新たな価値を生み出し、人々の生活に劇的な変化をもたらすこと。
インバウンド	11,16	外国人が訪れてくる旅行のこと。日本へのインバウンドを訪日外国人旅行または訪日旅行という。
SRT	25	Smart Roadway Transit の略。技術の先進性による快適な乗り心地やスムーズな乗降、洗練されたデザインなどのスマート (Smart) さを備え、路面 (Roadway) を走ることでもちの回遊性やにぎわいを生み出す、今までにない新しい移動手段 (Transit) の呼称。
か 行		
外国人市民	20	名古屋市内に住所を有する外国籍の人のほか、日本国籍を取得した人や国際結婚によって生まれた子どもなど外国の文化を背景に持つ人など、外国にルーツを持つ人。
グリーンインフラ	22	自然環境が有する多様な機能（生物の生息・生育の場の提供、気温上昇の抑制、にぎわい創出や地域の活性化等）を活用して、環境、防災・減災、地域社会など、様々な課題解決を図る取り組み。
グローバル	17,18, 19,25	世界的な規模。国境を越えて地球全体にかかわること。人、物財、情報の国際的移動が活性化して、さまざまな分野で「国境」の意義が曖昧になるとともに、各国が相互に依存し、他国や国際社会の動向を無視できなくなっている現象。
経済波及効果	1,34	ある産業に需要（消費や投資等）が発生したとき、その産業の生産を誘発するとともに、次々と他産業の生産も誘発していく経済活動の波及のこと。
健康寿命	8,10	本ビジョンでは、介護保険の情報に基づく「日常生活動作が自立している期間」とする。
交流人口	13,16,21, 24,25,32, 34	国内外からの旅行者や短期滞在者など、その地域を訪れる人のこと。



用 語	頁	解 説
さ 行		
再生可能エネルギー	21,22	太陽光や太陽熱、水力、風力、バイオマスなど、一度利用しても比較的短い期間で再生が可能であり、発電時や熱利用時に温室効果ガスがほとんど発生しないエネルギーのこと。
循環型都市	22	本市がめざす環境都市像の 1 つであり、「廃棄物などの発生抑制や資源の循環利用、適正処理が促進され、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷が最小限に抑えられているまち」をいう。
スポーツコンベンション	13	スポーツ大会のこと。
スポーツツーリズム	12,13	スポーツを「みる」「する」ための旅行そのものや周辺地域観光に加え、スポーツを「ささえる」人々との交流など、複合的で豊かな旅行スタイルの創造をめざすもの。
スポーツプロモーション	12	スポーツの普及・促進、発展。
た 行		
ダイバーシティ	2,17,19	「多様性」のこと。性別や国籍、年齢などに関わりなく多様な個性が力を発揮し、共存できる社会のことをダイバーシティ社会という。
脱炭素	21,22	人の活動に伴って発生する温室効果ガスの排出量と吸収作用の保全及び強化により吸収される温室効果ガスの吸収量との間を均衡させること。
な 行		
名古屋市 ファミリーシップ制度	20	互いを人生のパートナーとし、日常生活において、対等な立場で継続的な共同生活を行っている又は行うことを約したお 2 人が市に宣誓し、市が宣誓書受領証等を交付するもの。
燃料電池自動車	22	燃料電池で水素と酸素の化学反応によって発電した電気エネルギーを使って、モーターを回して走り、走行時に二酸化炭素や大気汚染物質を排出しない自動車のこと。
は 行		
ホスピタリティ	11	本ビジョンでは、「地元の人々が旅行者を迎え入れる際に有するおもてなしの心」とする。
ら 行		
リニア中央新幹線	21,24,25	全国新幹線鉄道整備法に基づいて計画された、東京都を起点、大阪府を終点とする新幹線鉄道。平成 23 年 5 月に決定された整備計画において、走行方式は超電導磁気浮上方式（超電導リニア）とし、最高速度は 505 キロメートル／時とすることが定められた。



参考3 策定の経緯

1 | 主な経緯

	日 付	事 項	備 考
平成30年度	6月4日	第1回有識者懇談会	大会を契機として本市がめざすべきものについて意見交換
	11月15日	第2回有識者懇談会	まちの姿を実現するための取り組みの方向性、ビジョンの理念及び題名について意見交換
	1月21日	第3回有識者懇談会	まちの姿と取り組みの方向性について意見交換
	2月7日	学生意見交換会	大会を契機として本市がめざすべきまちの姿とその実現方法について意見交換
	3月18日	第4回有識者懇談会	中間案(素案)について意見交換
令和元年度	4月22日	第5回有識者懇談会	ビジョン案(素案)について意見交換
	6月5・6日	所管事務調査 (2026 アジア競技大会 NAGOYAビジョン(案)について)	都市活力向上特別委員会(6月5日) 総務環境委員会(6月6日)
	7月1日から 31日まで	パブリックコメント実施	—
	9月2日	市民のご意見及び市の考え方 公表	—

〈 学生意見交換会概要 〉

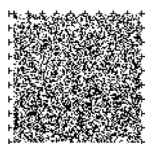
日 時：平成31年2月7日（木）13時～15時30分

場 所：名城大学ナゴヤドームキャンパス西館2階 社会連携センター shake

参加者：県内6大学の学生23名

内 容：大会を契機として

「将来の名古屋がどんなまちになってほしいか」をテーマに意見交換



2 | 第 20 回アジア競技大会名古屋市レガシー・ビジョン有識者懇談会

〈 開催概要 〉

回	開催日程	議題内容
第1回	平成 30 年 6 月 4 日(月) 16 時 30 分～ 17 時 30 分	アジア競技大会を契機として本市がめざすべきものについて
第2回	平成 30 年 11 月 15 日(木) 10 時～ 12 時	ビジョンにおける「まちの姿」を実現するための取り組みの方向性、ビジョンの理念及び題名について
第3回	平成 31 年 1 月 21 日(月) 13 時～ 14 時 30 分	「まちの姿」及び取り組みの方向性について、委員の追加について
第4回	平成 31 年 3 月 18 日(月) 13 時～ 15 時	名古屋市レガシー・ビジョン(仮称)中間案(素案)について
第5回	平成 31 年 4 月 22 日(月) 9 時 30 分～ 11 時 30 分	名古屋市レガシー・ビジョン案(素案)について

〈 委員名簿 〉

(敬称略 50 音順)

氏 名	分 野	役 職 等
板倉 健 (いたくら けん)	経 済	名古屋市立大学経済学研究科教授
岡田 亜弥 (おかだ あや)	国際 / 多文化共生	名古屋大学大学院国際開発研究科教授
奥宮 正哉 (おくみや まさや)	環 境	名古屋大学大学院環境学研究科教授
◎原田 宗彦 (はらだ むねひこ)	スポーツマネジメント	早稲田大学スポーツ科学学術院教授
福島 茂 (ふくしま しげる)	ま ち づ く り	名城大学都市情報学部教授
藤原 直子 (ふじわら なおこ)	多 様 性	椋山女学園大学人間関係学部教授
松村 亜矢子(まつむら あやこ)	健康とスポーツ	中部大学生命健康科学部講師
矢野 卓真 (やの たくま)	産 業 技 術	名古屋工業大学産学官金連携機構准教授
○來田 享子 (らいた きょうこ)	スポーツと教育	中京大学スポーツ科学部教授

◎：座長、○：副座長



3 | パブリックコメント

〈 実施概要 〉

(1) 募集期間

令和元年 7 月 1 日（月） から 31 日（水） まで

(2) 閲覧・配布場所

ア 本冊子

市公式ウェブサイト、市民情報センター、各区役所情報センター、支所、各区図書館などにおいて閲覧用に配架

イ 概要版

市公式ウェブサイト、市民情報センター、各区役所情報センター、支所、各区図書館、地下鉄各駅などにおいて配布

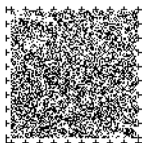
(3) 提出状況

意見提出者数 7 人（FAX 4 人、郵送 2 人、メール 1 人）

意見件数 13 件

(4) 意見の内訳

項 目	意見件数
第 20 回アジア競技大会に関すること	1 件
まちの姿 1 健康・地域活力に関すること	6 件
まちの姿 2 魅力・誇りに関すること	4 件
まちの姿 3 国際交流・多様性に関すること	1 件
まちの姿 4 イノベーション・持続可能性に関すること	1 件
合 計	13 件



1 | 改訂の趣旨

令和元年に策定した本ビジョンは、「名古屋市総合計画2023」と整合を図りながら、大会終了後の2030年頃のめざすまちの姿を明らかにするために策定しました、大会まで残り2年と迫る中で、次期総合計画である「名古屋市総合計画2028」の策定されたことや第5回アジアパラ競技大会の開催決定がされたことなどに伴い、一部改訂を行うもの。

2 | 主な経緯

日付	事項	備考
令和6年9月11日	第1回有識者懇談会	2026 アジア・アジアパラ競技大会NAGOYAビジョン案(素案)について意見交換

＜障害者団体連絡会概要＞

日時：令和6年8月23日（金）9時30分～12時

場所：名古屋市役所西庁舎12階 西12E会議室

参加者：市内12団体

内容：「2026アジア競技大会NAGOYAビジョンの改訂について」説明、意見聴取

3 | 2026 アジア・アジアパラ競技大会 NAGOYA ビジョン有識者懇談会

＜開催概要＞

回	開催日程	議題内容
第1回	令和6年9月11日(水) 10時00分～12時00分	2026 アジア・アジアパラ競技大会NAGOYAビジョン案(素案)について意見交換

＜委員名簿＞

(敬称略 50音順)

氏名	分野	役職等
板倉 健 (いたくら けん)	経済	名古屋市立大学大学院経済学研究科教授
岡田 亜弥 (おかだ あや)	国際 / 多文化共生	名古屋大学大学院国際開発研究科教授
奥宮 正哉 (おくみや まさや)	環境	名古屋産業科学研究所上席研究員
◎原田 宗彦 (はらだ むねひこ)	スポーツマネジメント	大阪体育大学学長
福島 茂 (ふくしま しげる)	まちづくり	名城大学都市情報学部教授
藤原 直子 (ふじわら なおこ)	多様性	椋山女学園大学人間関係学部教授
松村 亜矢子(まつむら あやこ)	健康とスポーツ	中部大学創造的リベラルアーツセンター准教授
矢野 卓真 (やの たくま)	産業技術	名古屋工業大学産学官金連携機構准教授
來田 享子 (らいだ きょうこ)	スポーツと教育	中京大学スポーツ科学部教授

◎：座長



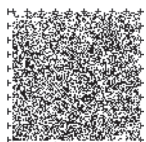
2026

アジア・アジアパラ競技大会 NAGOYAビジョン

—— アジアとともに輝く未来へ ——

発行・編集 名古屋市総務局
アジア・アジアパラ競技大会推進部
アジア・アジアパラ競技大会推進課
名古屋市中区三の丸三丁目1番1号
電話 052-972-2231
FAX 052-972-4205

発行年月 令和元年10月
改訂年月 令和7年 1月



アジア・アジアパラ
競技大会推進課
ホームページはこちら

